

令和2年度 平塚市市民活動推進補助金事業報告書（入門・発展コース）

1 団体名	安心・安全を考える会	
2 事業名	レッツ防災119&レッツ防犯110	
3 コース区分 ・補助額	(以下のどちらかのコースを○で囲んでください) 入門コース ・ 発展コース	21万円
4 実施期間	(開始期日) 令和2年 4月 1日 ~ (完了期日) 令和3年 3月 31日	
5 事業の目的 申請書と同じ内容を記入してください。	<p>今まで、子どもや市民に対して、防火意識を高め、消防活動に対する理解と協力を促進させるため、レッツ防災119を推進してきました。これは、CDを作成し、音声と踊りの発信力による市民参加の運動です。この運動を通じて安心・安全の意識も高まってきました。</p> <p>さらに市民の安心・安全を考えるうえで、防火意識とともに防犯意識も高める必要があります。そこで、新たに警察との連携でレッツ防犯110を展開します。多くの人が集まるイベントに参加して、音声と踊りにより、火災やオレオレ詐欺の防止などを訴える活動を目的にしています。</p> <p>1枚のCDの中に防災と防犯が入っているので、相乗効果が期待できます。このような市民活動により、消防や警察に対する理解を深め、地域や家族、市民が安心・安全に暮らせるまちづくりを目指します。</p>	
6 実施した内容 活動・事業の実績(実施内容・実施日・場所・参加人数など)について具体的に記入してください。 ※ 申請書の内容と相違があった場合はその変更点と理由を記入してください。	<p>オレオレ詐欺被害防止を目的にした歌詞や曲が出来たので、CDの表をピーポー★ピーポー110番、裏面をレッツ防災110としたCD300枚、チラシを2万枚作成しました。</p> <p>市民活動は、コロナがなかなか収束しないため、七夕まつりや消防フェスタ、地域の盆踊りや地区レクなどの行事がすべて中止となり、十分な活動はできなかった。しかし、コロナ禍でも実現できたことがありました。</p> <p>11月19日開催の全老連(老人クラブ)の代表者会議や11月26日の平塚市防犯協会の支部長会議にはオブザーバ参加して、会の目的、趣旨説明。また踊りの披露とチラシの配布、をおこない、全市的なPRが出来たことは、理解が深まり、次につながることで大きな期待をしています。</p> <p>また、平塚市福祉会館や南部福祉会館では、週1回、定期的に踊りを通じて利用者との交流を図ってきました。</p>	

<p>7 得られた 成果・効果</p> <p>活動・事業を実施したことで良かった点、得られた成果、確認された効果などについて記入してください。</p> <p>また、アンケート等で参加者や受益者（サービスを受けた方）の評価がわかる場合は、記入してください。</p>	<p>コロナの収束が見通せない状況で、十分な地域活動ができず、大変、残念な気持ちでいっぱいです。</p> <p>しかし、コロナ禍であっても、平塚警察署のアドバイスをいただき、ピーポーピーポー110番のCDができ、平塚市老人クラブや防犯協会を通じて、高齢者に対するオレオレ詐欺被害防止の一助にと企画、活動しましたが、地域の役員や参加者から、分かりやすく、詐欺防止の啓発に役立つとの意見をいただいています。</p>
<p>8 反省点・課題</p> <p>活動・事業を実施した結果、反省点や課題としてあげられる事項について記入してください。</p> <p>また、反省点や課題の改善方法を検討したり、解決を図った場合は、その内容を記入してください。</p>	<p>ユーチューブや動画の作成など、行う準備をしていましたが、コロナ禍の中で対応ができなかったことは悔やまれます。</p> <p>今後は、この反省を踏まえ、取り組みたいと思います。</p>
<p>9 今後の 事業展望等</p> <p>活動・事業について今後も継続的に行うものであれば、その計画や、団体としての今後の活動計画・事業展望等を記入してください。</p>	<p>地域や家庭の安心・安全は、防災と防犯が相まって、相乗効果を上げることが大変有効です。</p> <p>特にオレオレ詐欺被害が増大している中で、ピーポーピーポー110番は大変効果的でインパクトのあるCDとして期待できます。</p> <p>地域を巻きこんだ防災、防犯の活動は、継続と広がりが必要と考えます、今後、さらに発信力の強化の施策について研究をしていきます。</p>

活動・事業の収支決算書

事務局記入欄	発展コース補助割合確認 <input checked="" type="checkbox"/>
--------	---

※団体全体の収支ではなく、補助対象事業に限定した収支を記載してください。

①	収 入	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (積算根拠等)	
		補助金	210,000	210,000	0	平塚市市民活動推進補助金	
		事業収益	50,000	0	-50,000	CDの販売 500円×100枚	
		会員の会費	30,000	30,000	0	2,000円×15人	
		特別会費	0	37,751	37,751	役員補助7,400円×5人、751円×1人	
		収入合計	A 290,000	B 277,751	B-A -12,249	発展コース：補助対象経費 277,751円 × 90% = 249,975円 補助限度額 210,000円	
②	支 出	項 目	予算額 (円) (うち補助金額)	決算額 (円)	補助対象経費 (円) (うち補助金額)	増減額 (円)	具体的な内容 (積算根拠等)
		消耗品費	3,000 (1,000)	1,261	1,261 (1,000)	-1,739	コピー用紙871円、コピー代170円、カーマクネット代220円
		物品購入費	148,000 (100,000)	92,900	92,900 (90,000)	-55,100	CDコピー費300枚30,000円、CD材料費45,311円、CDコピーインク代17,589円
		講師謝礼	60,000 (50,000)	71,000	71,000 (60,000)	11,000	音源製作費61,000円、踊り指導料10,000円
		印刷費	50,000 (40,000)	86,640	86,640 (48,000)	36,640	チラシ印刷代2万部36,640円、デザイン料40,000円、振り書料10,000円
		旅費交通費	20,000 (18,000)	12,000	12,000 (10,000)	-8,000	500円×4回×6人
		通信運搬費	3,000 (1,000)	7,370	7,370 (1,000)	4,370	切手代2,950円、宅急便代4,420円
		食糧費等	6,000 (0)	6,580	0 (0)	580	茶菓子代6,580
		支出合計	C 290,000 (210,000)	D 277,751	271,171 (210,000)	D-C -12,249	
③収支決算額		B 277,751円	-	D 277,751円	=	0円	【備考】

※支出額の () 内は、支出のうち補助金から支出する金額を記載してください。また、各支出項目についての領収書の写し(コピー)を添付してください。



11月19日 全老連にて
説明、指導、CD、ちらしの配付



平塚市福祉会館にて
踊りの指導

安心・安全を考える会



11月26日 平塚市防犯協会の
支部長会議にて踊り&会のPR



令和2年度 平塚市市民活動推進補助金事業報告書（入門・発展コース）

1 団体名	NPO法人 暮らし・つながる森里川海	
2 事業名	馬入水辺の楽校の利活用促進事業	
3 コース区分 ・補助額	(以下のどちらかのコースを○で囲んでください。) 入門コース ・ 発展コース	40 万円
4 実施期間	(開始期日) 令和2年4月1日 ~ (完了期日) 令和3年3月31日	
5 事業の目的 申請書と同じ内容を記入してください。	<p>馬入水辺の楽校は川の自然と触れ合える場づくりを図ろうと、行政との協働活動で開校された。今年で21年目を迎える。自然環境の保護・保全活動、多様な環境学習活動の展開等、成果を上げているが、当法人の自己資金による運営で、公的な資金助成が無いことや当法人の運営体制が脆弱であること等により、その継続性が担保されていない。課題を克服する為、市民力の結集により、環境教育活動の拠点づくりを目途に、フィールドミュージアム（野外博物館）化を図ると共に、多様な環境学習活動を展開する中、利用実績を上げ、存在価値を高め、運営体制の確立に結び付けたい。</p> <p>■ 社会的背景 日本の子どもたちは元気がありません。学力・体力・運動能力の低下、生活習慣病の増加、コミュニケーション能力の低下、不登校、いじめ、自殺等、極めて危険な状況に置かれています。自然離れも深刻です。子どもたちの生育環境の改善、自然環境と触れ合える場づくりが必要です。環境悪化も進んでいます。ツバメやニホンミツバチなど身の回りに普通だった生き物が姿を減らしています。マイクロプラスチック汚染、地球温暖化等、先送りできない状況になっています。</p> <p>上記の課題を解決するためには、市民が自分ごととして取り組む展開が必要で、馬入水辺の楽校をベースに、地域のコミュニティと密接にからみあった展開、人、モノ、資金、情報の共有化に裏打ちされた推進体制の構築を目指します。</p>	
6 実施した内容 活動・事業の実績（実施内容・実施日・場所・参加人数など）について具体的に記入してください。 ※ 申請書の内容と相違があった場合はその変更点と理由を記入してください。	<ol style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスによる催しの中止 主要な催しが中止になり計画を大幅見直した。 ※18の催しが中止（含む雨天中止） コロナ対策：マスク着用、三密回避、検温の実施（3台購入、記録簿） ワークショップ（6回） コーディネート：NPOフュージョン長池 野遊び祭りのin馬入水辺の楽校として結実（11月14日：参加者1000人） ワークショップ参加メンバー（11人）。ひらつか着地型観光推進委員会、地域ボランティアゆとりすとなど。野遊び祭り終了後も継続開催。 自然環境の保護保全（市民参加） *生き物がかり隊（草刈り：12回）：組織化はできず。 *生き物の王国づくり（9回）：カエル池かい掘り、わらじボードづくり、 コモ巻き、落ち葉集め、エコスタックづくり、バタフライガーデンづくり 環境教育活動 *参加状況：地域のイベントの中止や自然志向の高まりなどにより、参加者が急増。タウンニュース社で生き物だよりを定期掲載。行事の紹介頻度も増。 *自然探偵団：現在11家族 *けん玉教室（木育活動＝11月より5回） *新規取り組み：アウトドアスキルアップ教室（1回）秘密基地作り（1回） 参加を断るほどの人気。新たな人間関係が生まれつつある。 *暮らしと自然の博物館博物館（12回：於：相模リバーセンター） *スタッフの安全管理として、刈り払い機安全講習会を受講（3名）。 新たな連携：ひらつか着地型観光推進委員会、平塚YWCA 広報活動の強化：平塚市広報、タウンニュース、平塚市地域情報局、HPの拡充強化 	

<p>7 得られた成果・効果</p> <p>活動・事業を実施したことで良かった点、得られた成果、確認された効果などについて記入してください。</p> <p>また、アンケート等で参加者や受益者（サービスを受けた方）の評価がわかる場合は、記入してください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 催し回数：56回 2. 参加者数：子供866、大人862、講師20、スタッフ225、取材5=1,978 3. 褒賞：公益財団法人安藤スポーツ食文化振興財団「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」：安藤百福賞を受賞。 公益財団法人河川財団：優秀成果賞（2019年度活動に対して）。 4. 総括 新型コロナウイルスにより、地域のイベントが軒並み中止になったことやアウトドア志向の高まり、広報活動の成果などにより、参加者が急増した。「参加して、楽しい」「こんな素晴らしい場所があったの」と好評。リピーターが増加し、新たな人間関係が生まれつつある。 5. 新規取り組み <ol style="list-style-type: none"> (1) フィールドミュージアム見える化活動 馬入水辺の楽校の長期運営の仕組みづくりの一環として、草刈りなど、利用しやすい環境整備活動に取り組んだ。子供たちも参加し、竹林の中にトトロの道を切り開いた。 (2) バタフライガーデンづくり 人が見ても美しく、蝶の集まるバタフライガーデンを市民参加で設置した。 (3) ファミリーアウトドア教室（1回）、秘密基地づくり（1回） 参加申し込みを断るほどの人気ぶりとなった。 前者でアンケートをとったところ、「楽しかったと大好評」 キャンプや火起こし体験、カヌーや農業体験などアウトドア関連プログラムの実施希望が寄せられた。 (4) 「暮らしと自然の博物館」（11回、於：相模リバーセンター） 相模川流域の自然や文化などを知ってもらおうと開催した。シュロのバッタづくりやバンブードラムで音遊びなどの特別講座も楽しんだ。 (5) 凧造りと凧揚げ大会、けん玉教室 地域の凧造り名人、内田さんの力を借り、ぐにやぐにや凧づくりと凧揚げを楽しんだ。凧揚げをしたことの無い子供たちが多く、大好評であった。木育活動として実施したけん玉教室も人気となり、新年度も継続実施することになった。 (6) 平塚YWCAとの初の協働で「ドリームキャッチャーづくり教室」を開催した。 6. 拡充強化 <ol style="list-style-type: none"> (1) 野遊び祭りin馬入水辺の楽校 ワークショップの開催により、前年度の「ともしびの夕べ」を拡充強化した。地域ボランティア「ゆとりすと」や「平塚着地型観光推進協議会」のメンバーの支援を受けた。1,000人余りの来場者で賑わった。 (2) ウナギの棲む川づくり運動 協働している「桂川・相模川流域協議会」が新たに石倉カゴを1基設置した。相模川で3基目。護岸整備等での根固め利用を協働推進していく。
<p>8 反省点・課題</p> <p>活動・事業を実施した結果、反省点や課題としてあげられる事項について記入してください。</p> <p>また、反省点や課題の改善方法を検討したり、解決を図った場合は、その内容を記入してください。</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 参加者の健康管理 <ol style="list-style-type: none"> ①異常気象による熱中症対策の拡充強化が必要 →催し開始時間の前倒し、時間短縮など →秋冬季への催しシフト ②新型コロナウイルスの感染防止対策の徹底 体調がすぐれない人は参加を辞退していただく（周知の徹底） マスク着用、三密防止、体温測定の実施 (2) 広報体制の強化 積極広報したが、馬入水辺の楽校、その取り組みを知らない人が多い。 (3) フィールドミュージアム見える化活動 活動の柱として、傾注したい。 (4) 後継者育成 中学生になっても参加してくれるよう、自然探偵団のプログラムを強化したい。 (5) CSRの推進 企業との連携を深めたい (6) アンケートの実施 市民ニーズを把握するため、アンケートを実施したい。 (7) 資金力の確保 経営の安定を図るため、無駄な費用の削減を図ると共に、会員の増強、資金力の確保に努めたい。
<p>9 今後の事業展望等</p> <p>活動・事業について今後も継続的に行うものであれば、その計画や、団体としての今後の活動計画・事業展望等を記入してください。</p>	<p>新年度は活動21年目の年となる。 馬入水辺の楽校のフィールドミュージアム化を目指し、見える化活動に力を入れたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 市民による市民のための楽校づくりを進めたい (2) 参加者提案型活動など、自分ごとになるプログラムの展開 (3) 後継者育成を視野に入れたプログラムの実施 (4) ワークショップの開催による馬入水辺の楽校の新たな利活用方法の模索 (5) NPO経営の確立

活動・事業の収支決算書

事務局記入欄 発展コース補助割合確認

※団体全体の収支ではなく、補助対象事業に限定した収支を記載してください。

①	収入		支出		収支決算額	
	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)		具体的な内容 (積算根拠等)
①	補助金	400,000	400,000	0	平塚市市民活動推進補助金	
	参加費	300,000	143,000	-157,000	川の自然学校68,000 ファミリアウトドア教室12,000 ちびっこ秘密基地づくり23,200 ナイトハイク17,500 音遊び1,500 けん玉教室1,500、2,500 凧づくりワークショップ16,800	
	自己資金	799,090	816,302	17,212		
	収入合計	A 1,499,090	B 1,359,302	B-A -139,788	発展コース：補助対象経費 1,357,490 円 × 70 % = 950,243 円 補助限度額 400,000 円	
②	項目	予算額 (円) (うち補助金額)	決算額 (円)	補助対象経費 (円) (うち補助金額)	増減額 (円)	具体的な内容 (積算根拠等)
	謝金	390,850 (180,000)	247,204	245,392 (163,514)	-143,646	ワークショップコーディネート84,000、54,000 ナイトウォーク18,068 (手数料含む)、川の自然学校17,958 ファミリアウトドア教室18,068 (手数料含む) 音遊び10,220 バンブードラム音遊び10,220 けん玉教室10,200 (2回分 手数料含む) 川の自然学校看護師4,590 (手数料含む) ちびっこ秘密基地づくり18,068 (手数料含む) 凧づくりワークショップ1,812 (補助対象外)
	研修費	77,000 (0)	53,440	53,440 (0)	-23,560	草刈機安全講習会44,440 (手数料含む) HPの使い方講座9,000
	リース費	10,000 (0)	0	0 (0)	-10,000	
	器具、消耗品 保険代	835,760 (180,000)	988,865	988,865 (186,793)	153,105	バタフライガーデン苗49,500 12,672 (手数料含む) タープ46,330 のぼり30,800 カヌーラック用胆管パイプ13,686 横断幕37,400 肥料6,389、1,134、5,148 竹のこぎり14,232 水中ポンプ45,980、発電機149,380 パソコンインク15,442 草刈機替え刃39,380 魚捕り用網7,810、9,988 発電機用ガソリン2,230 昆虫標本づくり資材32,190、9,872、1,980、1,320 チェンソー防護服 (2着) 22,532、チェンソー手袋 (2個) 1,498、チェンソーヘルメット (2個) 21,118 草刈り作業時保険33,100 イベント賠償保険5,000 苗58,420 (手数料含む)、62,940 (手数料含む) 草刈機2台+チェンソー176,000、43,890 草刈機修理代31,504
	交通費	185,480 (40,000)	69,793	69,793 (49,693)	-115,687	ワークショップコーディネート20,000、15,000 ナイトウォーク4,970 川の自然学校4,970 ファミリアウトドア教室4,970 ちびっこ秘密基地づくり4,970 海のお魚調べ14,913 (手数料含む)
支出合計	C 1,499,090 (400,000)	D 1,359,302	1,357,490 (400,000)	D-C -139,788		
③収支決算額 B 1,359,302 円 - D 1,359,302 円 = 0 円					【備考】	

※支出額の () 内は、支出のうち補助金から支出する金額を記載してください。また、各支出項目についての領収書の写し (コピー) を添付してください。

NPO 法人 暮らし・つながる森里川海
2020 年度活動報告

ウナギの棲む川づくり運動（石倉かごの設置と調査） 6月6日



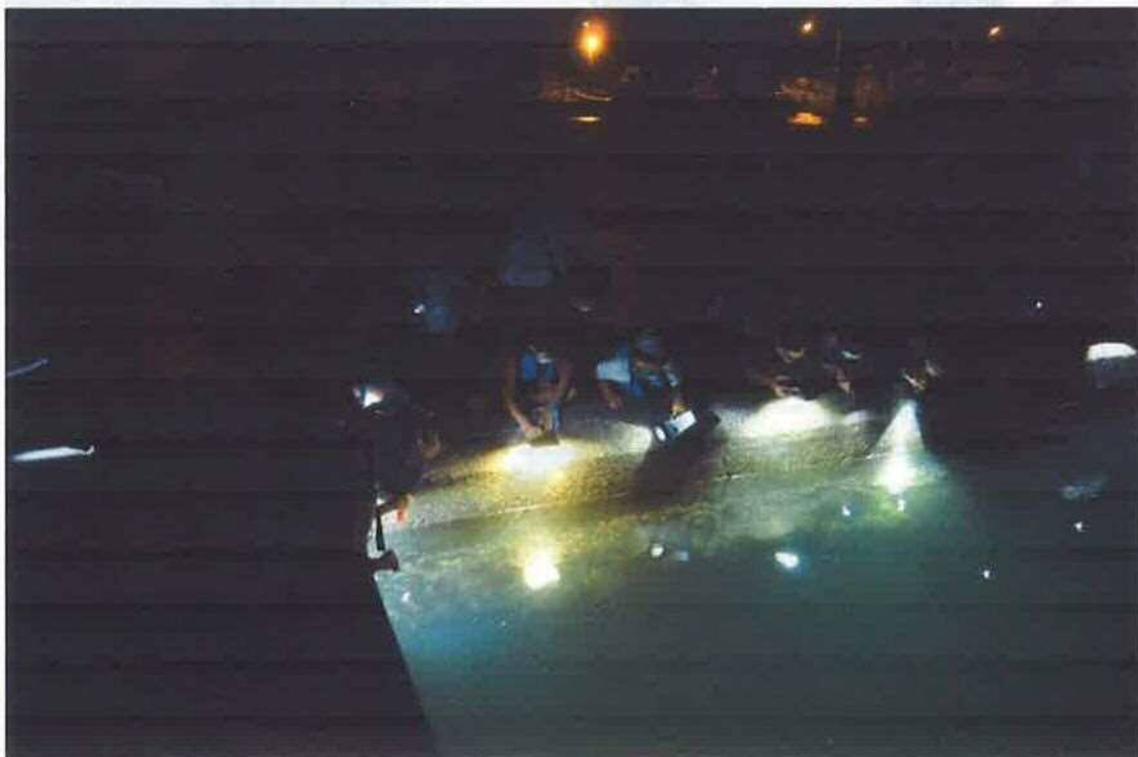
バタフライガーデンづくり 6月20日 市民参加による生物多様性の保全



カエル池のかい掘り 8月29日 外来種駆除



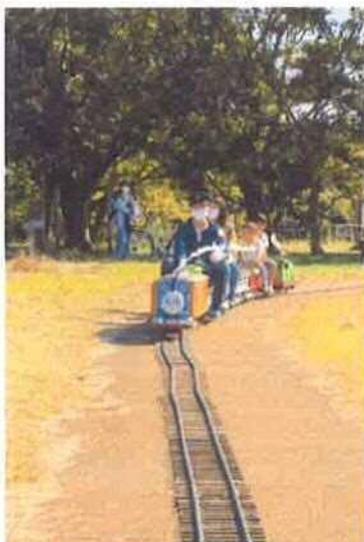
平塚新港お魚調べ 9月19日 森と海はつながる 夜の生き物調べも大人気



けん玉教室



野遊び祭り 11月14日 来場者1000人。水辺の楽校の自然を満喫した



令和2年度 平塚市市民活動推進補助金事業報告書（入門・発展コース）

1 団体名	子ども学習支援グループ須賀の寺子屋	
2 事業名	子どものための学習支援教室	
3 コース区分 ・補助額	(以下のどちらかのコースを○で囲んでください) 入門コース ・ 発展コース	28万円
4 実施期間	(開始期日) 令和2年4月1日 ～ (完了期日) 令和3年3月31日	
5 事業の目的 申請書と同じ内容を記入してください。	<p>家庭学習や自主学習に何らかの問題を抱えているために、学校で楽しく勉強できず、通常授業について行かなくなっている小中学生を対象に、放課後や長期休業時に、学習支援員と個別に楽しく学習することで、子どもたちの学習意欲と学力向上が図れ、学校生活を意欲的に送れるようになることを目指す。</p> <p>子どもたちの学習や見守りの支援には、市内在住在学在勤の若者や、定年退職後の元教員等の有識者がボランティアとしてあたり、家族や教員とは違った目線で子どもと触れ合うことで、自分の長所や可能性を発見し、認識できる機会も増え、自己肯定感や自尊心を高め培うことも期待できる。また、支援員の中には高齢の協力者も少なくない。豊富な知識を子どもたちに提供していただき、セカンドライフの活躍の場としても期待できる。引きこもりがちな生活を送っている方々にも協力してもらい、社会との接点の一つになる場としても期待できる。</p>	
6 実施した内容 活動・事業の実績(実施内容・実施日・場所・参加人数など)について具体的に記入してください。 ※ 申請書の内容と相違があった場合はその変更点と理由を記入してください。	<p>1.小学生寺子屋 緊急事態宣言により4～5月・2～3月は活動休止。6月～1月15回開催。小学生延べ153人。支援員・ボランティア延べ129人。会場:6月～12月太洋中学校体育館会議室、1月須賀公民館。宿題や教材、タブレット端末を使って楽しく学習することができた。</p> <p>2.小学生夏休み宿題教室は、コロナの感染防止の観点から開催を中止した。</p> <p>3.理科教室 11月28日開催。小学生12人。中学生2人。高校生1人。支援員5人。会場:太洋中学校体育館会議室。東海大学の大学生・大学院生4名を講師として、小中学生を対象に「湘南のシラスから学ぶ食物連鎖」をテーマに、解剖実験を通して環境学習を実施した。</p> <p>4.中学校入学準備教室は、新型コロナウイルス感染防止により中止した。</p> <p>5.中学生寺子屋 4月～3月41回開催。中学生延べ507人。支援員延べ479人。ボランティア延べ21人。会場:6月～12月太洋中学校体育館会議室。1月～3月須賀公民館。休校中の4月・5月は、オンライン学習支援と郵送による課題添削を実施。7月～1月は毎月3回、6月・2月・3月は毎月2回寺子屋を開催。1月～3月はオンライン学習支援と対面学習、郵送による課題添削を実施。生徒が希望する2教科の学習支援を行った。生徒全員にタブレット端末を貸出すことにより、Zoomによるオンライン学習支援や無料通信教材(eboard)を活用したリモート学習、更に添削教材の郵送により対応した。</p> <p>6.支援員のための研修 ・「Zoomの使い方講習会」全3回実施。5月21日・6月18日会場:太洋中学校体育館会議室。11/19オンライン。支援員延べ34人。講師3名。・「支援員全体会議」実施。11月21日会場:太洋中学校体育館会議室。支援員24人。顧問2人。協力団体1人。・「子どもの発達障がいを理解する講習会」実施。3/15オンライン。支援員10人。・「組織基盤強化事業ミーティング」全5回実施。8/27、11/21、12/19会場:太洋中学校体育館会議室。1/16、1/30会場:港ベイサイドホール。支援員延べ91人。講師1名。支援団体:ひらつか市民活動センター3名。</p> <p>7.広報活動 須賀の寺子屋通信発行No.15～19発行。リーフレット1000部作成・配布。</p>	

<p>7 得られた成果・効果</p> <p>活動・事業を実施したことで良かった点、得られた成果、確認された効果などについて記入してください。</p> <p>また、アンケート等で参加者や受益者（サービスを受けた方）の評価がわかる場合は、記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月2～3回開催する寺子屋では、支援員対応や開催回数で好評を得た。児童・生徒が学習の仕方を学び、弱点の克服や学習習慣を身につけることができた。個々の子どもの特性に応じた支援により、楽しく学習することで自己肯定感を高め、学力の向上を目指すことができた。中でも、本年度から導入した中学生対象の第1木曜日の自習は、生徒自身がやりたい学習や提出物等に集中して取り組めたことで参加生徒全員から好評を得た。 ・タブレット端末を利用したオンライン学習を取り入れ、多様な子どものニーズに合った学習支援の対応ができるようになったことは、おおむねの生徒より好評を得た。特に不登校の生徒対応や、コロナによる緊急事態宣言下でも学習支援活動を継続できたことは成果が高かった。 ・理科教室では、東海大学人間環境学研究科藤野研究室の学生による実験や観察などの体験を通して、地域の自然環境を楽しく学習し、自然環境保全への興味を育てられた。 ・支援員のための基礎研修会を行い、オンライン学習支援で使用するZoomに関するスキルアップや支援対象の児童-生徒の特徴を知るための発達障がいを理解する講習会で、より良い学習支援の対応が期待できるようになった。 ・団体運営に必要な知識を学ぶことで、活動の充実と発展を目指すことができる。 ・有効な広報活動を通して、支援を求める子どもたちやボランティアに情報提供ができる。
<p>8 反省点・課題</p> <p>活動・事業を実施した結果、反省点や課題としてあげられる事項について記入してください。</p> <p>また、反省点や課題の改善方法を検討したり、解決を図った場合は、その内容を記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員の全体会議やミーティングを通して、学習支援スキルや ICT 活用スキルが十分な状況ではないことを発言する支援員が少なくないことが分かった。特に、オンライン学習支援では、生徒と支援員が同じ教材を共有していないことで学習効果が十分に上がらなかった。また、一部のインターネット環境が整っていない家庭の生徒やリモート学習が苦手な生徒には課題が残った。次年度は、生徒が使用する教科書やワークと同じものを支援員に配付できるよう準備をすると共に、タブレット端末の操作やZOOMでの教材共有やホワイトボードの活用を実践的に学ぶ講習会を開催し、学習支援スキルの向上を目指したい。 ・コロナによる緊急事態宣言により、太平洋中学校施設が利用できなくなったことで今まで通りの活動が制限されてしまった。1月に地域公民館の利用団体登録が許可され、須賀公民館と港ベイサイドホールが利用できるようになったことで、一部のインターネット環境が整っていない家庭の生徒やリモート学習が苦手な生徒にも学習支援活動を継続することができた。 ・支援員の全体会議やミーティングを通して、活動の目的やその理解にばらつきが生じていることが分かった。同じ方向に向かって目的達成のために活動することができない人が一部に存在することで、足並みが崩れ組織運営にも影響が出かねない。何より、支援を必要としている子どもたちへの対応に不足が生じてしまっはならないと考え、現役はもとより新しく学習支援員となる人のために、早急に活動マニュアルを再作成する必要性を強く求める。 ・組織基盤強化事業を通し団体の課題が見えた。設立時の想いと団体の将来像のバランスが良くないこと。特に団体の将来イメージと、これから話し合う機会が少ないこと。活動年数による意識の差が生じていることなど。活動の目的や理念を全員が共有し盤石な組織基盤作りが求められる現状を知ることができた。
<p>9 今後の事業展望等</p> <p>活動・事業について今後も継続的に行うものであれば、その計画や、団体としての今後の活動計画・事業展望等を記入してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現行の通り、小学生寺子屋は毎月2回。中学生寺子屋は毎月3回定期開催し、学習習慣を身につけるべく、学習支援活動を継続して実施する。 ・オンライン学習支援における課題やオンライン学習支援の有効性も見えてきた。課題を解決して、さらにオンライン学習支援に注力したい。 ・理科教室は、東海大学人間環境学研究科藤野研究室の学生が、継続的な開催の協力体制ができています。2021 年度も既に担当学生への引継ぎを行い、実施に向けた計画がスタートしている。 ・組織基盤強化事業の継続。課題克服に向けた具体案を計画し、着手可能な範囲から実施する予定。まずは寺子屋通信で情報の共有化を図ることと、役員会報告の配信や役員会への支援員オブザーバー参加を導入して、団体運営の参画意識を高めたい。 ・活動の広報として、地域への情報発信を図るため、須賀公民館での寺子屋開催や、ひらつか元気応援ポイントの受け入れ団体に登録を済ませ、多くの方々の目に留まる活動を展開する。

活動・事業の収支決算書

事務局記入欄 発展コース補助割合確認

※団体全体の収支ではなく、補助対象事業に限定した収支を記載してください。

① 収入	項目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由や積算根拠)	
	補助金	280,000	280,000	0	平塚市市民活動推進補助金	
	団体会計より	125,528	124,283	-1,245	寄付金等	
	収入合計	A 405,528	B 404,283	B-A -1,245	発展コース：補助対象経費 404,283 円×70%= 282,998 円 補助限度額 280,000 円	
② 支出	項目	予算額 (円) (うち補助金額)	決算額 (円)	補助対象経費 (円) (うち補助金額)	増減額 (円)	具体的な内容 (増減理由や積算根拠)
	教材費	20,000 (14,000)	8,962	8,962 (8,000)	-11,038	教科書 2 冊、漢検問題集 4 冊、他 8,962 円
	消耗品費	74,600 (50,000)	83,045	83,045 (50,000)	8,445	非接触体温計・除菌剤・フェイスガード等感染防止用品 41,785 円、封筒・コピー用紙・ラベル紙・インク・トナー他 41,260 円
	備品費	222,060 (155,000)	268,218	268,218 (188,000)	46,158	タブレット端末 10 台 266,358 円、タッチペン 1 本 1,860 円
	講師謝礼費	57,500 (40,000)	19,500	19,500 (14,000)	-38,000	理科教室講師謝金 10,500 円、支援員研修講師謝金 9,000 円
	旅費・交通費	11,368 (8,000)	11,528	11,528 (10,000)	160	郵送料 8,448 円、交通費 3,080 円
	リーフレット作成費	15,000 (10,000)	13,030	13,030 (10,000)	-1,970	デザイン料 10,000 円、印刷代 3,030 円
	研修会参加費	5,000 (3,000)	0	0 (0)	-5,000	
支出合計	C 405,528 (280,000)	D 404,283	404,283 (280,000)	D-C -1,245		
③収支決算額 B 404,283 円 - D 404,283 円 = 0 円					【備考】	

※支出額の () 内は、支出のうち補助金から支出する金額を記載してください。また、各支出項目についての領収書の写し(コピー)を添付してください。

須賀の寺子屋 写真（2020年度）



須賀公民館で小学生の学習支援



フェイスガードを付けて中学生寺子屋



理科教室 『湘南のシラスから学ぶ食物連鎖』



タブレットを使ったオンライン学習（支援員が自宅からリモート）

令和2年度 平塚市市民活動推進補助金事業報告書（入門・発展コース）

1 団体名	八幡郷土史編纂委員会	
2 事業名	八幡郷土史集大成本の完成	
3 コース区分 ・補助額	(以下のどちらかのコースを○で囲んでください。) 入門コース ・ 発展コース	16 万円
4 実施期間	(開始期日) 令和2年4月1日 ~ (完了期日) 令和3年3月31日	
5 事業の目的 申請書と同じ内容を記入してください。	『八幡の郷土史』（仮称）発刊を通じて後世に伝えるべき八幡の歴史を文字と写真、絵に残しておきたい。 後刻、八幡に住む住民が昔は八幡と言う地域はこんな文化・歴史があったのか、主に民族学的見地から纏めていきたい。 八幡には、古文書や書物が残っていない。	
6 実施した内容 活動・事業の実績（実施内容・実施日・場所・参加人数など）について具体的に記入してください。 ※ 申請書の内容と相違があった場合はその変更点と理由を記入してください。	集大成版の製本（100冊） 地域住民への啓蒙活動 自治会だより（月刊に作成）に集大成版の1部を抜き取り乍ら、継続的に連載を始めた。（令和2年8月号より）	

<p>7 得られた成果・効果</p> <p>活動・事業を実施したことで良かった点、得られた成果、確認された効果などについて記入してください。</p> <p>また、アンケート等で参加者や受益者（サービスを受けた方）の評価がわかる場合は、記入してください。</p>	<p>集大成版の完成 残念乍、長老のお一人は昨年夏にお亡くなりになってしまったが、残りの5名の方は比較のお元気で、集大成版をお渡し出来る事が何よりも嬉しい。</p> <p>地域住民への啓蒙活動 自治会月報への掲載を始められた。</p>
<p>8 反省点・課題</p> <p>活動・事業を実施した結果、反省点や課題としてあげられる事項について記入してください。</p> <p>また、反省点や課題の改善方法を検討したり、解決を図った場合は、その内容を記入してください。</p>	<p>集大成版の発刊では、コロナ禍の影響で作業の中断が避けられなくなり、年度末終盤までもつれてしまいました。</p> <p>八幡小学校の児童への課外事業 コロナ禍の影響で昨年同様、今年も見送られてしまったが、今後、集大成版を先生や、ご家族に読んでもらいたい。</p>
<p>9 今後の事業展望等</p> <p>活動・事業について今後も継続的に行うものであれば、その計画や、団体としての今後の活動計画・事業展望等を記入してください。</p>	<p>この地域で新たな発見等があれば、直ぐに対応していきたい。</p> <p>次年度の目標である、カルタ作りに精進していきたい。</p> <p>集大成版を活用して、説明会などをとおして、後世に伝えていきたい。 また、新たな住民にも理解していただき、郷土愛を育みたい。</p>

活動・事業の収支決算書

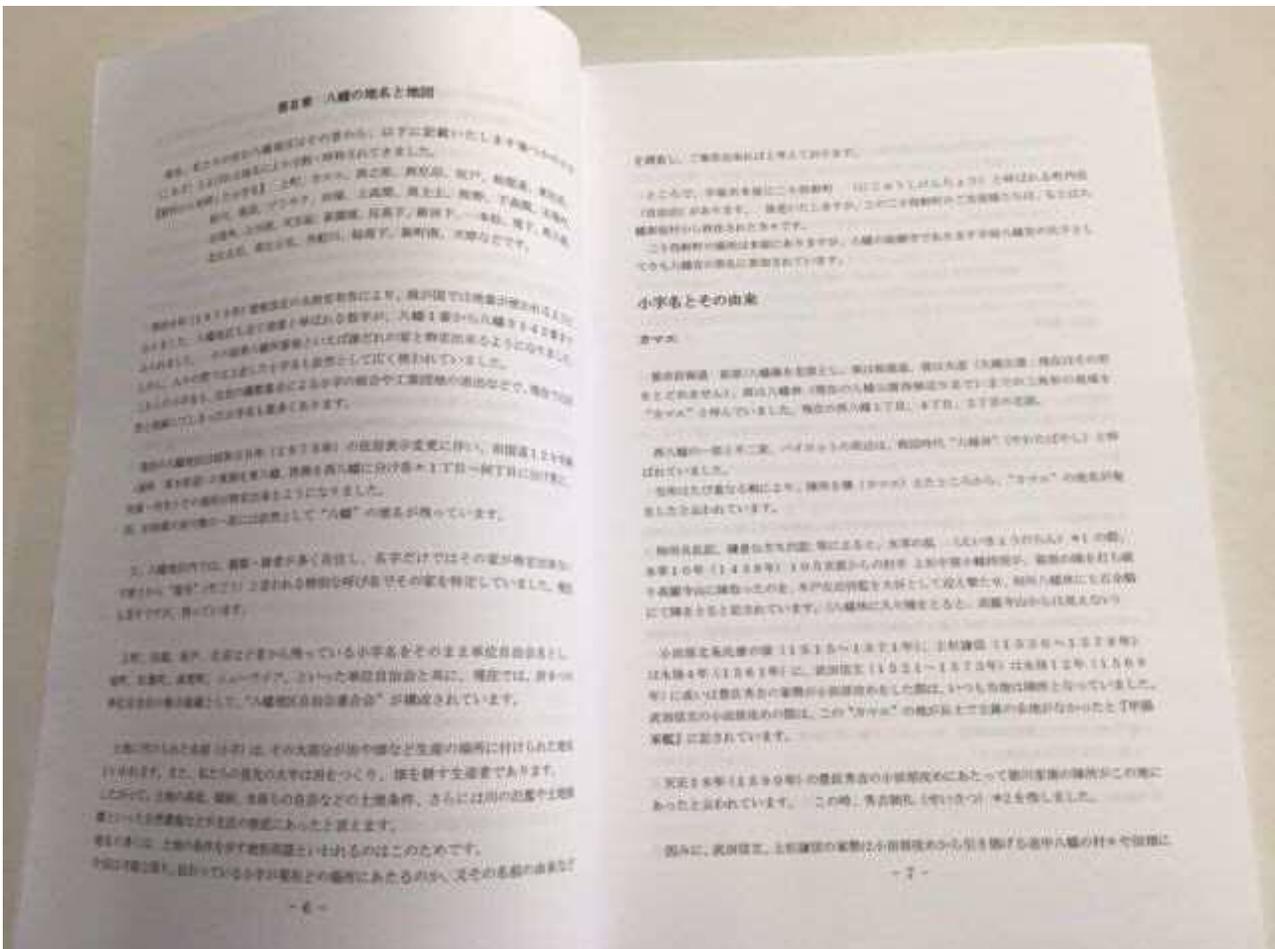
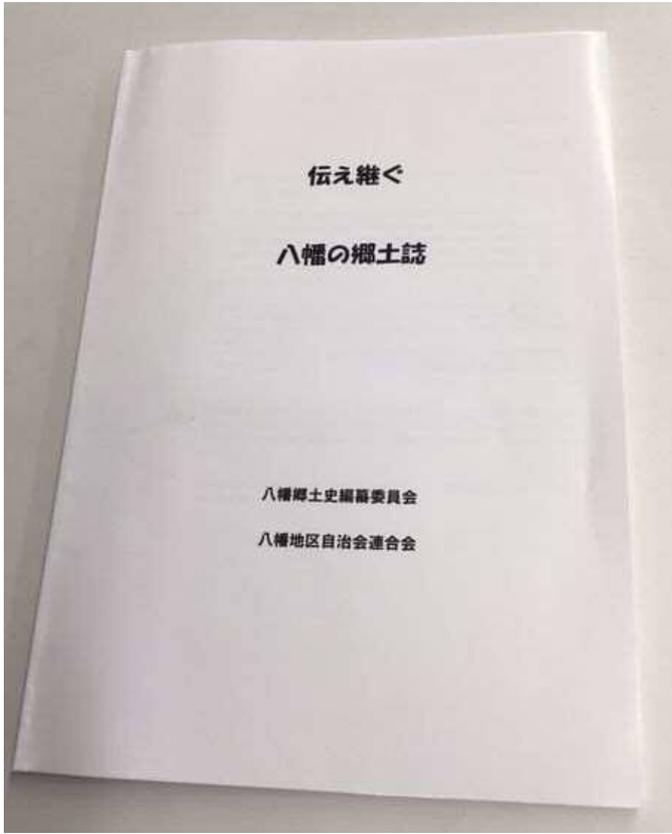
事務局記入欄 発展コース補助割合確認

※団体全体の収支ではなく、補助対象事業に限定した収支を記載してください。

① 収 入	項 目	予算額 (円)	決算額 (円)	増減額 (円)	具体的な内容 (積算根拠等)	
	補助金	160,000	160,000	0	平塚市市民活動推進補助金	
	助成金	40,000	40,000	0	八幡地区自治会連合会	
	会費	16,000	16,000	0	2,000円×8名	
	繰越金	0	41,049	41,049	前期繰越金から充当	
	収入合計	A 216,000	B 257,049	B-A 41,049	発展コース：補助対象経費 252,350 円 × 90 % = 227,115 円 補助限度額 160,000 円	
② 支 出	項 目	予算額 (円) (うち補助金額)	決算額 (円)	補助対象経費 (円) (うち補助金額)	増減額 (円)	具体的な内容 (積算根拠等)
	製本費	185,000 (160,000)	240,450	240,450 (160,000)	55,450	検討資料プリント代40,450円、製本費200,000円 (100冊)
	施設使用料	21,000 (0)	11,900	11,900 (0)	-9,100	会館使用料8,500 (500円/回×17回) エアコン代3,400円
	お茶代	10,000 (0)	4,589	0 (0)	-5,411	会議用お茶代
	事務用品費	0 (0)	110	0 (0)	110	事務用品
		()		()		
		()		()		
		()		()		
支出合計	C 216,000 (160,000)	D 257,049	252,350 (160,000)	D-C 41,049		
③収支決算額 B 257,049 円 - D 257,049 円 = 0 円					【備考】	

※支出額の () 内は、支出のうち補助金から支出する金額を記載してください。また、各支出項目についての領収書の写し(コピー)を添付してください。

八幡郷土史集大成本の完成品



● 平塚市市民活動推進補助金審査会

平塚市市民活動推進補助金審査会は、市民活動や地域活動に関し、専門的知識又は学識経験を有する者から構成されています。補助金の交付の対象・補助額の審査選考を行います。

委員	藤巻 裕之	東海大学 政治経済学部 政治学科 准教授
委員	櫻井 光	認定 NPO 法人藤沢市民活動推進機構 支援業務マネージャー
委員	藤井 京子	一般社団法人 ソーシャルコーディネートかながわ 副理事長
委員	寺山 泰郎	平塚の在宅ケアを考える会
委員	佐藤 由美子	ほんとかママ 代表
委員	横田 裕	フェニックスサービス(株) 代表取締役
委員	加藤 茂	平塚市自治会連絡協議会 幹事 豊田地区自治会連絡協議会 会長